日文教育資料［ 道徳 ］

どうとくのひろば

No.19

テーマ
「道徳と特別活動」

こころのひろば
「時を越えた友好の絆」＜前編＞［沼田準一］

特集
総合的な学習の時間や特別活動と
道徳教育，道徳科との関連［島 恒生］

見てわかる！ 道徳
「真理の探究，創造」「克己と強い意志」
［越智 貢，奥田太郎，上村 崇］

実践事例
小学校 日常の道徳教育の学びを
深化する道徳授業
［佐藤寛子］

中学校 場面絵の活用で，
目標に向けた強い意志について
考える道徳授業
［多田義男］

こんなとき，どうする？
道徳で学んだことはどんなときに役に立つの？
［桑田隆男，大内弘全，川野 司］

地球の仲間からのメッセージ
氷山とペンギン［長瀬健二郎］

本資料は，「教科書発行者行動規範」に
則り，配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！ 日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版／秀学社

救出当時の機体を再現塗装した「KUSHIMOTO号」(2015年)
/ 提供：ターキッシュ エアラインズ

テヘラン赴任中の沼田さんと技術者の方々

こころのひろば

「時を越えた友好の絆」＜前編＞

特定非営利活動法人
エルトゥールルが世界を救う
特別顧問
沼田準一（ぬまた じゅんいち）

プロフィール
1985年，自動車メーカーの技術者としてテヘランに赴任中，空爆に遭遇し，トルコ航空*機で救出された日本人のひとり。現在はトルコ共和国と日本の絆を世界に広め，世界平和に寄与することを目標とした活動に精力的に取り組んでいる。

イラン・イラク戦争（1980～1988年）の真っただ中の1985年，空爆が始まったテヘランから，トルコの救援機で救出された日本人215名のひとり，沼田準一さんにお話を伺いました。

―沼田さんは1985年が初めてのテヘラン赴任だったのですか。

いいえ，イラン革命後では，1983年にも行きました。その時もイラクとの国境付近では地上戦が繰り広げられていましたが，テヘランにはほとんど影響がなかったですね。だから1985年もそのつもりでした。日本の軍事評論家たちも「都市攻撃はない。」と言っていたし。

当時，イランでは自動車を輸出したいという動きがあったので４人の若い技術者と行きました。危険だと分かっていたら連れて行かなかったのですが。

―大丈夫なはずが，そうではなかった？

そうですね。私たちがテヘランに着いたのが２月24日で，現場に入って技術指導しようとした３月６日にアフワズの空爆が始まって。アフワズというのはイランとイラクの国境付近の小さな町ですが，テヘランとは相当な距離があるので，「大丈夫だろう」と思っていたんです。ところがその空爆を契機に都市攻撃が激化して，６日後の3月12日未明にテヘランにも空爆があり，私たちが住む住宅街のすぐ近くにも着弾しました。技術者のひとりは爆風と衝撃でベッドから弾き飛ばされて，気がついたら床に転がっていたそうです。

その日のうちにホテルの地下室に避難したのですが，ほぼ毎日のように空爆がありました。窓もない防空壕のような空間で不安や恐怖と闘い，精神的にまいってしまいそうでした。気晴らしにやった麻雀にはずいぶん救われましたね。

―テヘランへの空爆で，いよいよ国外に脱出しないといけない状況になってきたのですね。

何とか国外に出ようと，テヘランに乗り入れているヨーロッパ系航空会社に毎日チケットを買いに出かけましたが，全然だめでした。それぞれ自国の人を優先して乗せるので。そんなの当たり前ですよね。国が国民の財産と生命を守るのは基本中の基本ですから。

そうしているうちに，3月17日，イラクのフセイン大統領が「48時間以降はイラン上空を飛ぶ航空機は撃墜する。」という警告をだしたのです。そして18日に日本大使館から「日本から救援機は来ない。」とはっきり通告されました。日本の救援機がきっと来てくれると信じていたのに，それが完全に裏切られて。私たちは見捨てられた―そう思いましたね。

―絶望の中で迎えた 3月19日ですが。

19日の未明，「トルコから救援機が来る。」という連絡が入りました。「なぜトルコが？」と思うこともなく，助けに来てくれる人がいるってことで，「わーっ！」とみんなで盛り上がりました。しかし喜びや驚きと同時に，半信半疑でもありました。

それでもとにかくチケットを買おうということになって，私たちの中のひとりがトルコ航空*にチケットを買いに行きました。その人から「買えそうだ！」という連絡が入り，空港に向かいました。

―空港で，搭乗するまではいかがでしたか。

空港ビルはすごい人でした。荷物チェックを済ませて向かったトルコ航空*のカウンター前は日本人だらけで，トルコの人がいたかどうかは記憶にありません。トルコ航空*は日本人に搭乗券をどんどん発行してくれました。後で聞いたのですが，トルコの多くの人は，日本人を航空機に乗せるため陸路で出国したそうです。

出国審査で長時間待って，待合室に着いたのは空港に到着してから４時間後くらいだったと思います。その間も爆撃を受けていたんですよ。ズズーンという爆発音で悲鳴が上がり，両手で頭を抱えてテーブルの下に身を隠したりしました。「いつやられるかわからない」と，待合室に入ってからも精神的余裕は全然なかったです。

―空港で爆撃ですか。飛行機に当たるともう……。

飛行機の中で爆撃を受けたら，もうおしまいですからね。だから，飛行機が飛び立ってからも「いつイラクの爆撃機にやられるかわからない。」という気持ちで，まだそんなに喜べなかったですね。「自分は死んでも仕方がない。でも自分の仕事の都合で連れて来た４人にもしものことがあったら，家族になんてお詫びしたらいいのだろう。どう責任を取ったらいいのだろう。」といったことを考えていました。

―「もう安心だ。」と思えたのはいつですか。

飛び立ってから１時間くらいだったと思うんですけど，機長の「Welcome to Turkey.（ようこそ，トルコへ。）」のアナウンスが耳に入ったときですね。「ああ，国境を越えたんだ。」と。もう爆撃機にやられることはないと思って。その瞬間，頭の中がパーッと真っ白になって，ほっとした。気が緩んじゃってね。もう涙がダーッと出てきて，言葉なんか出なかった。初めて「助かった。」と思えた瞬間でしたね。

―トルコに着いてからは？

首都アンカラを経由して，イスタンブールに到着しました。空港ではトルコの報道陣のすごいフラッシュに驚きました。毎日のように空爆を受けて，閃光に敏感になっていたから，思わず後ずさりしたくらいで。でもカメラを構えている人たちを見て，「この人たちが助けてくれたんだ。」と思うと，また涙が出てきちゃって。その時，完全に緊張が解けました。

―トルコに対する思いは？

助けていただいたその時も，トルコの人たちに対する感謝の気持ちは大いにありましたけど，ものすごく強い親トルコ的な気持ちというのは，その時はまだ出てきていない感じでしたね。

<次号に続きます>

＊トルコ航空……現在のターキッシュ エアラインズ。

日本文教出版の道徳科の教科書にも，
トルコと日本の絆を描いた教材を掲載しています。
『小学道徳　生きる力　6』p.124 ～ 127
「エルトゥールル号　－日本とトルコのつながり－」

避難先のホテルの地下室にて（右から２人目が沼田さん）

特集

総合的な学習の時間や特別活動と道徳教育，道徳科との関連

畿央大学大学院　教授　島　恒生

1 道徳の教科化に向けて

小学校は平成30年度から，中学校は31年度から，「特別の教科　道徳」（以下，道徳科という）が全面実施されます。「考え，議論する道徳」として，児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を得る授業の展開が求められています。

一方，道徳性を育てる「豊かな体験」もたいへん重要です。教育活動全体を通して，児童生徒が自分の在り方や生き方に関わる様々な出会いや体験をし，豊かな心をいっぱい貯め込み，道徳性を養うのです。また，そうすることで，道徳科の授業も深まります。

なかでも，総合的な学習の時間や特別活動は，児童生徒が体験活動に主体的に取り組んでいく学習活動です。受け身ではなく，活動に自ら取り組むからこそ，道徳的な体験も多く積み重ねられていくことでしょう。さらに，これらの時間は，道徳科で考えたことを実際に生かしていく道徳的実践の場でもあります。

2 総合的な学習の時間や特別活動の目標と道徳教育，道徳科

ところで，学習指導要領で教科等の目標の中に，「自己の生き方」あるいは「人間としての生き方」という文言が入っているのは，道徳科と総合的な学習の時間，特別活動の３つだけです。したがって，道徳教育や道徳科との関連をしっかりと考えておくことで，総合的な学習の時間や特別活動の学習もまた，より深い学びとなります。

実際，小学校，中学校とも学習指導要領の「第３章特別の教科　道徳」の第３の２の（5）には，道徳科を進めるに当たって，「特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。」と示されています。特別活動等における実践活動や体験活動は，計画的に実施され，すべての児童生徒が参加する共通の体験となるため，道徳科の授業の中で，共通の問題意識や体験の想起として生かすことができるのです。具体的に見ていきましょう。

（1）総合的な学習の時間と道徳科

総合的な学習の時間の目標は，「探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成することです。現代社会の課題などに取り組み，その学習が自己の生き方を考えることにつながっていくことになります。特に，ふさわしい探究課題の例として，『学習指導要領解説総合的な学習の時間編』に挙げられている，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題や，地域の人々の暮らし，伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題，児童生徒の興味・関心に基づく課題などは，道徳の内容と共通している面が多くあり，課題の探究に取り組む中で，自己の生き方を考える貴重な機会となります。

また，総合的な学習の時間の探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力については，「よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくため」のものとされています。それは，粘り強く課題の解決に取り組む，他の児童生徒と協働的に取り組む，自分の見方とは違った見方に気づき，新たな考えを創る，社会の一員として社会に参画するといった態度を育てるなど，道徳教育との関連が深いものばかりです。

（2）特別活動の目標と道徳科

特別活動の目標にある，「集団活動に自主的，実践的に取り組」むこと，「互いのよさや可能性を発揮」すること，「集団や自己の生活上の課題を解決」することや，目指す資質・能力である「多様な他者との協働」「人間関係」「自己の生き方」「自己実現」などは，

道徳教育の内容と共通している面がたくさんあります。

もちろん，特別活動で行われるさまざまな体験活動は，道徳のあらゆる内容に関わるものばかりです。

このようにそれぞれの関連は深いのですが，総合的な学習の時間や特別活動と道徳科の時間の特質が曖昧となってしまわないように留意することも，それぞれの深い学びに大いに関わってきます。

3 学級活動と道徳科

学級活動は，日常生活での行いや行動に関わる具体的な問題点を取り上げ，その解決を話し合い，「今日からどうする？」「明日から，どのようなことに取り組む？」といった，行いや行動レベルの集団目標や自己目標をもつことができるようにすることが求められます。

一方，道徳科は，道徳的価値に焦点を当て，その理解を基に，自己の生き方についての考えを深め，道徳性の諸様相である道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる時間です。それらは，これから先，出会うであろう様々な場面や状況において，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践できるような内面的資質です。どのような状況や場面に出会うかは，これから先，いろいろとありますから，具体的な行いや行動の仕方を考え，課題解決のための目標をもつ学級活動とは異なるわけです。

4 総合的な学習の時間や学校行事での体験活動と道徳科

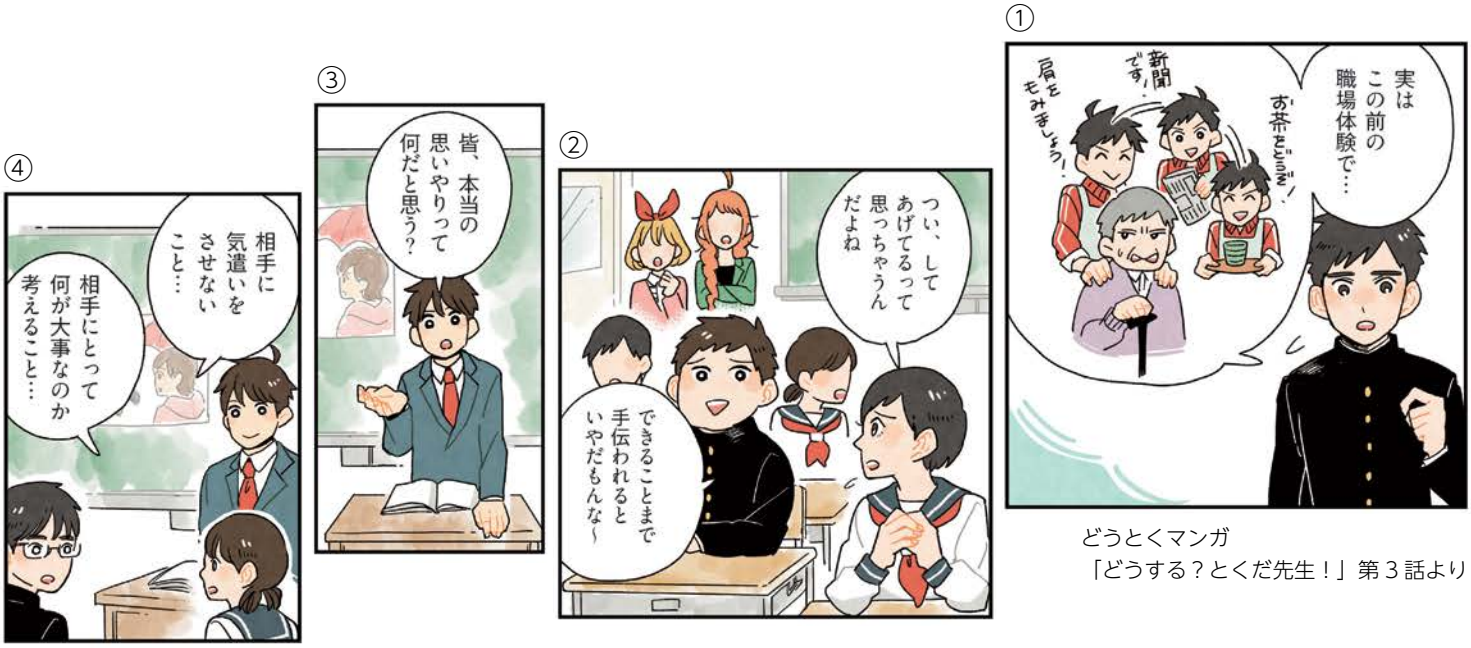
さらに，総合的な学習の時間や学校行事での体験活動と道徳科の時間とを関連付けて指導する場合に起こりがちなのが，道徳科の時間が体験活動の事前指導や事後指導になってしまう問題です。

ねらいが同じ方向であるとき，同じ時期に学習を計画し，内容を関連付けて指導を行うよう工夫することで，それぞれの指導の効果を高めることができます。例えば，総合的な学習の時間や特別活動で高齢者施設を訪問する時期に合わせて，「親切・思いやり」についての道徳科の授業を実施するという場合があります。高齢者の人たちと出会う体験を通して，児童生徒の心の中には「親切・思いやり」の心が育まれます。しかも，児童生徒に共通の体験ですから，道徳科の授業において取り上げることで，学級のすべての児童生徒は「親切・思いやり」の大切さについて実感をもって考えることができます。

しかし，道徳科の時間に，実際に訪問した高齢者施設での体験活動を教材として学習を進めた場合，活動の振り返りや反省会になるなど，道徳科の時間が体験活動の事後指導になってしまうことがあります。

また，逆に，高齢者施設を訪問する前に，高齢者施設を取り上げた教材を使って道徳科の授業をした場合は，道徳科の時間が体験活動の事前指導になってしまいがちです。道徳科の時間で養う道徳性は，数日後の高齢者施設の訪問という状況に対応するためだけのものではありません。

総合的な学習の時間や特別活動と道徳科との関連は，それぞれの特質が生かされてこそ図られるのです。



どうとくマンガ
「どうする？とくだ先生！」第３話より

5 道徳科と総合的な学習の時間や特別活動等との関連のさせ方

よりよい関連を図るためには，それぞれの学習での教材や活動とそれらに含まれる道徳的価値についての感じ方や考え方との関係を考えておくとよいでしょう。

まず，氷山のイメージで考えると，道徳科の学習は，図１のように考えることができます。海面上の氷山の見えている部分は，道徳教材に描かれた「状況」に相当すると考えます。当然，道徳科の時間は，この「状況」を理解するだけの時間ではありません。道徳性は内面的資質ですから，この「状況」において「登場人物が感じたことや考えたこと」をみんなで考えます。ただし，この段階で留まると，心情理解のみに偏る授業になります。この「登場人物が感じたことや考えたこと」の中にある「道徳的価値に対する感じ方や考え方，生き方」に授業の焦点を当て，みんなで考えるのです。

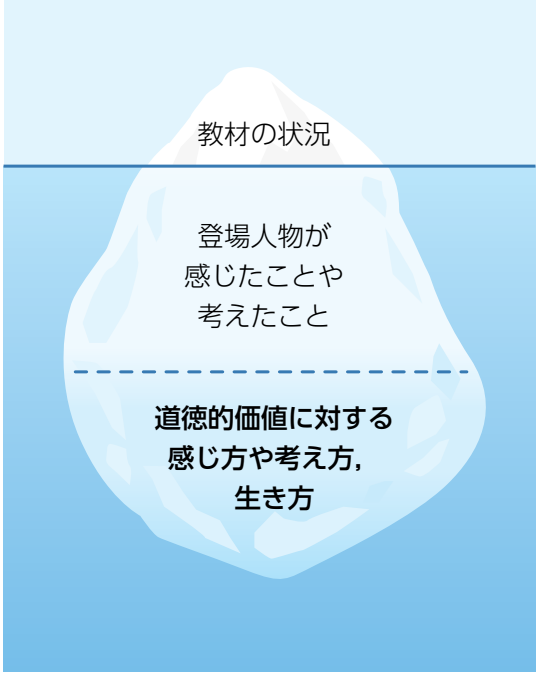


図１　道徳科のイメージ

一方，総合的な学習の時間や特別活動で行われる体験活動の「活動」そのものは，氷山の見えている部分です。その「活動」で，児童生徒は様々なことを「感じたり，考えたり」します。そして，その中に「道徳的価値に対する感じ方や考え方，生き方」があります。

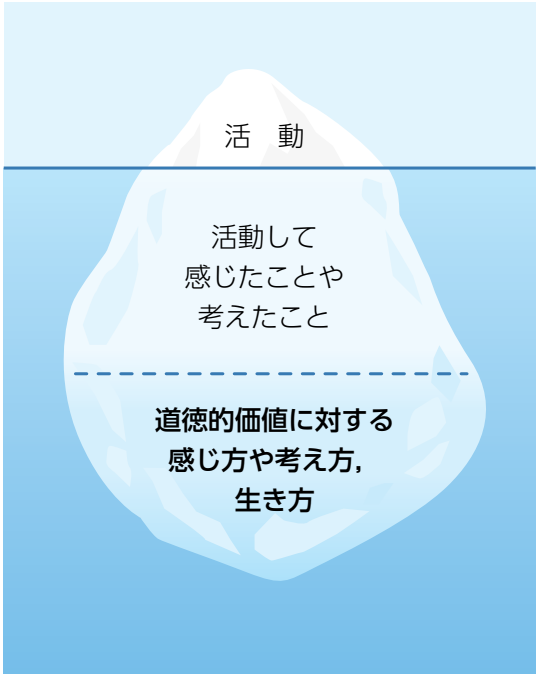


図２　体験活動のイメージ

関連付けるのは，この「道徳的価値に対する感じ方や考え方，生き方」の部分を重ねることです。これに対して，上二つの部分を重ねてしまうと，道徳科の学習が，体験活動の事前指導や事後指導になってしまうのです。

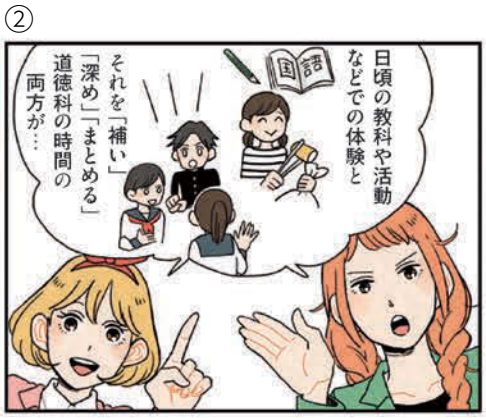
高齢者施設を訪問した活動に対して，道徳科の時間では，全く別の状況の読み物教材を通して考え合うことで，高齢者施設を訪問したときに感じたり，考えたりしたことの意味や意義が，自分との関わりの中で「補充」「深化」「統合」されていくことになるのです。

一方，道徳科の時間に児童生徒が自覚する「道徳的価値に対する考え方や生き方」は，総合的な学習の時間や特別活動の活動を通して出会ったり，体験したりできるようにすることで，児童生徒にとってはさらに自覚が深まっていくのです。

6 総合的な学習の時間や特別活動等での道徳に関わる発達の段階を考えた指導

総合的な学習の時間や特別活動の指導に当たっては，道徳教育との関連から考えた発達の段階を留意しておくことも重要なことです。

例えば，「親切・思いやり」については，次のような発達の段階が考えられます。



どうとくマンガ
「どうする？とくだ先生！」第３話より

- **低学年**……親切は，相手だけでなく，自分や周りの人たちの心も温かくするという視点で考える。
- **中学年**……相手の気持ちを考え，もし自分だったらこうしてほしいと思うことを相手にすることが思いやりであるという視点で考える。
- **高学年**……相手の気持ちを考えるだけでなく，相手の立場や状況までも考え，どうすることが本当に相手のためになるのかを考えて行うのが思いやりであるという視点で考える。
- **中学校**……思いやりとは，心から相手のためのことを思い行う行為であるが故に，さりげなさが大切である。つまり，本当の思いやりとは，相手に気づかれずに行うことが大切であるという視点で考える。

したがって，低学年では，例えば，常時活動として，学級みんなで「親切さん」を見つけて認め合う活動などを行い，みんなで温かい気持ちを共有できるようにすることなどが考えられます。この体験が，道徳科の時間に，「親切ってみんながうれしくなるんだよ」といった自覚にもつながるのです。

中学年では，総合的な学習の時間の取組として，「○○園のおじいちゃんやおばあちゃんを，ニコニコ顔にしよう」や「保育所の子どもたちに絵本の読み聞かせをしよう」といった活動が考えられます。対象となる高齢者や幼児の気持ちを想像し，どのような取組がよいのかを考え，実行し，振り返るといった探究活動です。相手の気持ちを考えますから，例えば，個別的なつながりになるよう，児童と高齢者が，多数対多数の関係ではなく，ペアを作り，一対一の関係で活動を進めることなどの工夫が考えられます。

高学年では，例えば，総合的な学習の時間で「バリアフリーの町づくり」など，障がいのある人や高齢者の人などの置かれている状況を考え，どうすることがすべての人たちにとって安心した町づくりにつながるのかを考え，提案していく探究活動などが考えられます。自分たちの観察や考え方だけでなく，様々な立場の人たちにインタビューをし，様々な視点や立場から考え，探究できるようにする工夫が大切です。

中学校では，例えば学校行事の「職場体験」の中で，店の人たちや施設等で働いている人たちが，お客さんや入所者の人たちのことを考え，さりげない配慮や気配りをしていることを理解し，自分もまたそのように行動することで，そのよさに気づくといった活動などが考えられます。「さりげなさ」がポイントです。

いずれも，総合的な学習の時間や特別活動などで，発達の段階に応じた豊かな心の貯め込みがしっかりできるようにすることや，それを踏まえて道徳科で道徳的価値の自覚を図るようにすること，さらに，総合的な学習の時間や特別活動などの道徳的実践の場で，親切や思いやりの発揮の仕方を考えて実行できるようにすることで，道徳性を養っていくのです。

以上のように，総合的な学習の時間や特別活動と道徳教育や道徳科とは，うまく関連付けることで相乗効果を発揮し，それぞれの学びがより深いものになるのです。

「真理の探究，創造」「克己と強い意志」

知識と他者

私たちは知識や技術を何ひとつ持たずに生まれてきます。そのままでは，むろん，社会の中で生きていくことはできません。子どもたちが，長い年月をかけて，学校で多くの知識を学び，さまざまな技術や技能を身につけるのはそのためです。

その際，種々の教科で学ぶ知識や技能がすべて先人によってもたらされたことを忘れるべきではありません。先人の中には，ガリレオ・ガリレイのように，強靱な意志によってさまざまな障害を克服しながら，真理の探究や創造を成し遂げた人も少なくありません。

私たちは教師や教科書を介してそうした他者である先人から多くの知識や技能を受け取るのです。その意味で，私たちが学ぶ知識や技能は，いわば，他者からの贈り物だといっても過言ではありません。

歴史的な他者と同時代の他者

私たちは，自分だけの力によって，さまざまな知識やそれに基づく力を得ていると思いがちです。しかし，その実，私たちは一人では無知で無力です。だからこそ，それらを与えてくれる先人の努力に敬意を払わなければなりません。

ただし，私たちが学んだ（そして学んでいる）知識や技術が完成されたものではないことにもあわせて留意しておく必要があるでしょう。先人の知識や技術は日々更新されています。教科書の内容が徐々に変わっていくのもそのためです。この点を見逃すと，私たちは古い知識や技能に縛られ，場合によっては，思い込みや偏見，そしてそれに基づく傲慢さなどに囚われることにもなりかねません。

それゆえ，知識や技術が変わっていくこと，そしてそのために同時代の他者が努力していることにも目を向けなければなりません。私たちは，先人という歴史的な他者だけでなく，同じ時代を生きている他者にも多くを負っているのです。

さまざまな他者との対話

彼らだけではありません。私たちに知識や技術を与えてくれる点では，身近な他者も同じです。悩みや疑問を抱いたとき，私たちは家族や友人に相談するでしょう。私たちは，彼らと対話しつつ，疑問を解消する方途や悩みを解決する方向を見定めます。専門家の著作を読んで疑問の答えを探そうとする際には，著者の文章や考え方に自分の疑問を重ね合わせ，その解決につながる糸口を探すでしょう。とすれば，この場合も，自分自身の問題解決のために，著者に問いかけ彼の回答を聞く，という声なき対話をしていることに変わりはありません。

このように，私たちはさまざまな他者と対話しつつ自己自身のよりよい生き方を模索しているのです。

創造と克己

こうした対話による学びは，現在の自分を少しずつ変えていくはずです。また，逆に，私たちが，対話を通して他の人々の考え方やあり方を変えることもあるにちがいありません。考え方やあり方が変わっていくことで，私たちの視野は広がり，一人では生み出せなかったものを創造することにつながるでしょう。ガリレオも地球が自転することを一人で発見したわけではありません。誰もが自分の無知を自覚しながら，他者との対話を続けるならば，さまざまな問題に対する望ましい方策を見出す可能性が広がります。

子どもたちは，授業における学習や家庭における読書によって歴史的な他者や同時代の他者と対話し，学校生活や日常生活の中で身近な他者と対話しつつ，成長していきます。彼らは，対話を通して変わりながら，

監修：プール学院大学　教授　越智 貢
共著：南山大学　教授　奥田太郎
福山平成大学　教授　上村 崇

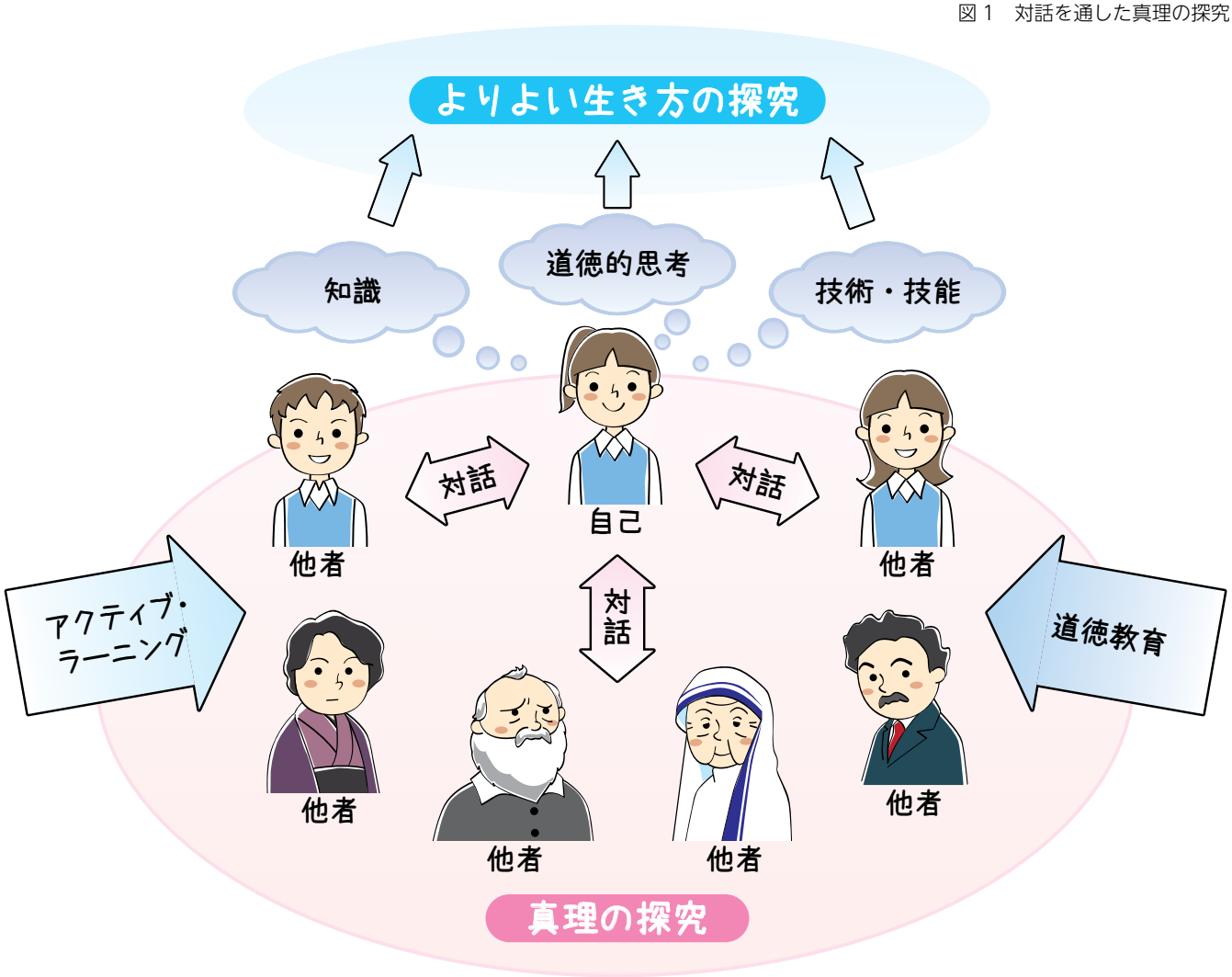
やがて自らを乗り越えていくのです。

道徳教育と真理の探究の場

道徳的思考もこうした対話を通してこそ育まれることを見逃してはなりません。新たな道徳科のねらいとも言うべき「考え，議論する道徳」が，これまで述べてきた学びにおける対話の役割と深く関わっていることは想像に難くないでしょう。

いや，それどころか，新学習指導要領全体の指針となっているアクティブ・ラーニングが，学びにおける子どもたちの対話を後押ししていることも忘れてはなりません。アクティブ・ラーニングすなわち「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」は，学校や学級の中に対話による真理の探究の場を設けることの勧めであり，対話的な学びの重要性を再構築しようとする試みだからです。

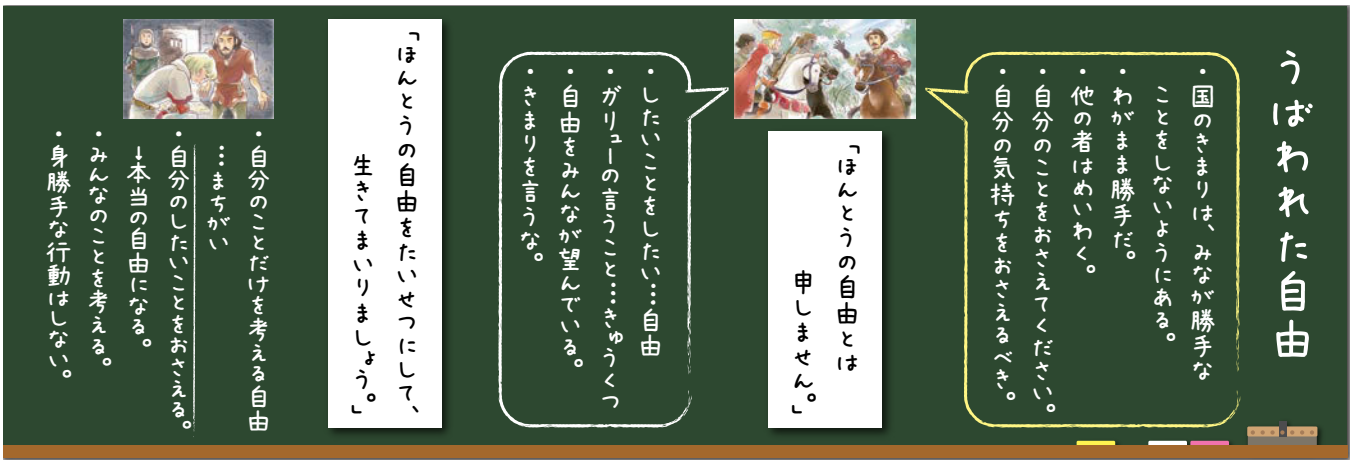
図１　対話を通した真理の探究



実践事例 小学校

日常の道徳教育の学びを深化する道徳授業

東京都町田市立金井小学校　指導教諭　佐藤 寛子



1 ねらいとする価値について

人は，自分の意志を尊重し，自由を求め，おおらかに生きていきたいと考えている。自由だからこそ，自分で判断することができ，自分で行動することもできる。何物にもとらわれない自由な考えや行動は，自主性を生み，自立心を高めていくのである。

しかし，「本来の自由」ではなく，勝手気ままでわがままな「自分本位の自由」を求めた行動は，時として他者の気持ちを考えられず，人に迷惑をかけ，集団への悪い影響につながる場合がある。人として成長していくためには，したいことをしたいがままに行動するだけでなく，自分のわがままな意志を律し，責任を伴うことを自覚した上で，本来の自由を生かした行動をすることが大切である。

児童には，本来の自由についての考えや行動がもつ意味やよさに気付き，自律的に行動しようとする態度を育てたい。

2 指導の工夫

（1）イメージの可視化

事前に「自由」に対するイメージを絵で描かせ，どのような自由を求めているか意識できるようにする。児童は「自分の受けているきまりやルールから解放される自由」や「自分の欲求を満たす自由」を想像している。

導入で数名の児童の絵を紹介し，「自由」について共有することで，自分の意志で思うがままに行動できる自由を感じさせる。授業では，自分の意志のままに行動することが及ぼす影響を理解させ，児童が「本来の自由」について主体的に考えられるよう展開していく。

（2）教材提示の工夫

教材は，音楽を流す，間を十分にとるなどの工夫により語り聞かせる。牢屋でガリューとジェラール王が話す後半の場面では，照明を薄暗くし，臨場感を出すことで児童が教材に聞き入り，登場人物の気持ちを自分のこととしてじっくり考えることができる。範読後は，牢屋に残されるジェラール王を見せ，中心場面のジェラール王の様子を印象付ける。

（3）グループによる話し合い活動

「ほんとうの自由をたいせつにして，生きてまいりましょう。」というガリューの言葉を聞いたジェラール王の思いを少人数のグループで考えさせる。「『本当の自由を大切に生きていく』とはどうすることか」と話し合うポイントを児童に投げかけ，「考えたい，意見を聞きたい」と意欲をもたせ，話し合わせる。

全体で共有する場面では，「ジェラール王はほんとうの自由をたいせつに生きていくことができるか」を考えさせ，自分勝手な行動ではなく，よく考え，判断し，自律的に行動することの大切さに気付かせたい。

展開例

内容項目：A「善悪の判断，自律，自由と責任」

主題名 本来の自由

教材名 うばわれた自由
（『新　生きる力』日本文教出版）

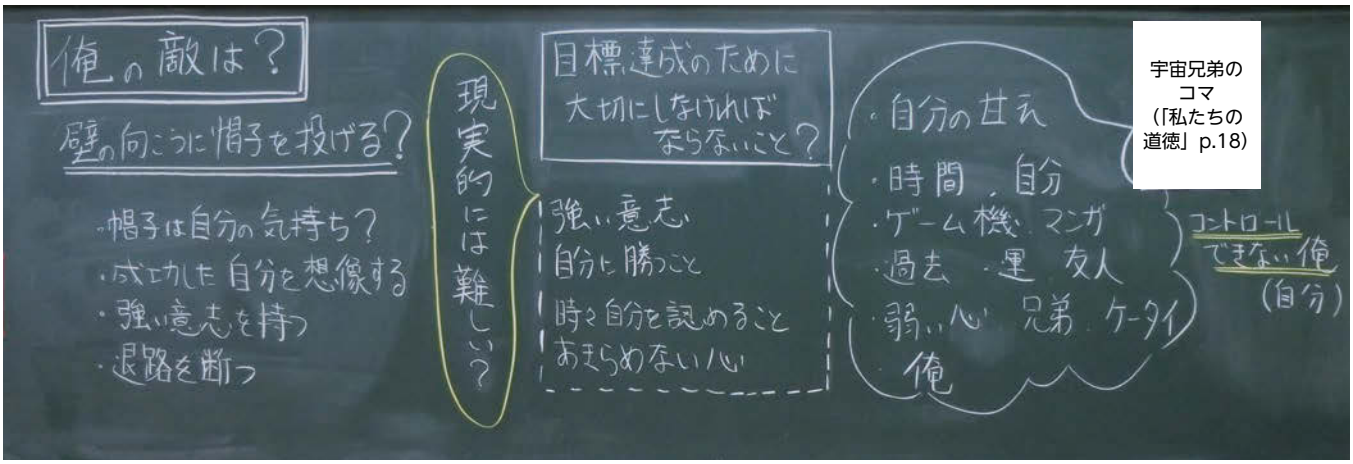
ねらい 「ほんとうの自由をたいせつにして，生きてまいりましょう。」と言うガリューの言葉を聞いたジェラール王の思いを考えることで，自由を大切にし，自律的で責任ある行動をしようとする態度を育てる。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される児童の反応）	◇指導上の留意点，☆評価
導入	**1 「自由」という言葉のもつイメージについて話し合う。** **○友達の絵を見て，どのような「自由」なのか考えよう。** ・宿題がなくて，楽な生活をしている自由。 ・好きなものを，好きなだけ食べられる自由。 ・ずっとゲームや遊びができる自由。	◇事前に描いた「自由」をイメージした絵を見て，自分中心で自分の意志を優先した自由について共有する。 ◇登場人物を紹介し，２人の「自由」についての考えが異なることを話し，教材への導入を図る。
展開	**2 教材「うばわれた自由」の範読を聞き，話し合う。**	◇BGMを活用したり間のとり方を工夫したりして読み聞かせる。 ◇教材の後半では，教室を薄暗くし，臨場感を高める。
	○「あなたが言っているのは，ほんとうの自由とは申しません。」というガリューの必死の訴えを聞くジェラール王子はどんな気持ちだったのだろう。 ・したいことをしたいようにして何が悪い。 ・ガリューの言うようにしていると窮屈だ。 ・自由をみんなが望んでいる。きまりを言われたくない。	◇板書を通してガリューの考える「自由」について捉えさせる。 ◇ガリューとジェラール王子の「自由」に対する考えの違いを視覚的に理解できるようにする。
	◎「ほんとうの自由をたいせつにして，生きてまいりましょう。」というガリューの言葉をジェラール王は，どんな思いで聞いたのだろう。 ・自分のことだけを考えていた。間違っていた。（反省） ・自分のしたいことばかりではなく，それを抑えてみんなのことも考えることが大切だ。（他者に対する責任） ・みんなのことを考え，行動する。（自律した行動）	◇少人数で話し合う学習形態をとり，「本当の自由を大切にして，生きていく」ことについて考え，自律的で責任を伴う自由の意味やよさに気付かせる。
	○「本当の自由を大切に生きていく」とはどうすることだろう。 （補助発問）	◇全体で共有する場面では，ジェラール王がどう考え，行動するかについて考えさせる補助発問を行う。 ☆話し合いを通して，自由を大切にし，自律的に行動しようとする気持ちがもてたか。
	3 自分の生活を振り返り，これからの自分について考える。 **○「自分勝手」と「自由」について考えよう。** **「自分勝手」に行動しなくてよかったことはありますか。** ・自由時間だとしても勝手なことをせず，きまりやルールは守る。 ・夏休み中に，自由に遊んだけれど，家族との約束を守って遊んだので，ほめられた。 ・自分勝手に行動したために，みんなに迷惑をかけてしまった。	◇ワークシートを通して，自己を振り返り，自由を大切にすることのよさを感じさせる。 ◇「自分勝手な行動をした」経験も可とし，授業を通して考えたことを記入するよう指導する。 ☆ワークシートへの書く活動を通して自由な言動がもつ意味やよさについて考えることができたか。
終末	**4 教師の説話を聞く。**	◇児童が事前に描いた絵を紹介し，自由であっても，自律して行動する大切さを感得させる。

実践事例 中学校

場面絵の活用で，目標に向けた強い意志について考える道徳授業

国立大学法人筑波大学附属中学校　教諭　多田 義男



1 はじめに

文部科学省が，全国の小中学校を対象に『私たちの道徳』の活用状況を調査した結果によると（H26年），各都道府県教育委員会より寄せられた意見には，「イラストや写真等も発達段階を意識してあり，生徒が自然とページをめくっていく配慮がある」「名言・格言などの充実により，授業の構想に一定の方向性が見出せる」との学校現場からの声が記載されている。そこで，この調査の結果から道徳の授業でコラムや場面絵を活用した授業実践を行った。

2 授業展開について

長い読み物教材は話の構成が複雑であり，内容整理だけでも時間がかかる場合がある。事実に基づいたグラフ，生徒の多くが知っている漫画の場面絵やコラムの活用等は，短い時間で生徒への道徳的諸価値に関わる問題提起をすることができると考えた。

①導入でグラフを活用する。

『私たちの道徳』p.19 のグラフで人生の目標について考えさせる。

②展開で場面絵を活用する。

『私たちの道徳』p.18 宇宙兄弟「内なる敵」の左側の吹き出しを空欄にしたものを黒板に掲示し，目標を達成させるためには何が自分の阻害要因になっているかを考えさせる。ペアトークを行い，それぞれの「敵」について考える。

③グループトークをさせる

中心場面で「理想通りにいかない現実もある」を音読し，自ら決めた目標を達成させるために大切なことは何かをグループトークで深めていく。

3 生徒の反応

・宇宙兄弟は多くの生徒がその内容を知っており，生徒にとって身近なものとして考えることができた。また，問題なく学校生活を送っているとみられていた生徒でも「『欲』が邪魔をしている。」と発言をしたことから，誰にでも目標を達成させるためにはその人なりの課題があることを認識させることができた。

・「自分を信じて進む。」「物事から逃げずに取り組む。」また，「そのような環境を与えられていることにも感謝する。」などの発言を生徒たちから引き出すことができた。生徒の感想からは「みんなも内なる敵とたたかっていることがわかった。壁を乗り越え，目標を達成することに逃げずに取り組んでいきたい。」など具体的に自分の置かれている状況に照らし合わせ考え，どのように行動していくかを考える授業となった。

展 開 例

内容項目：A 「希望と勇気，克己と強い意志」

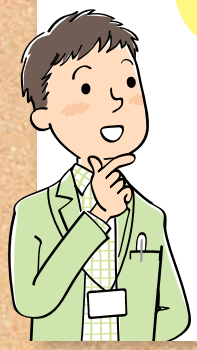
主題名 目標の実現

教材名 目標を目指しやり抜く強い意志を（『私たちの道徳 中学校』文部科学省）

ねらい 場面絵やグラフを使い，それぞれの目標実現のためには，さまざまな困難があることを共感させ，目標や理想を達成させようとする強い意志を育てる。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点，◆発問の意図
導入	**1 p.19「人生の目標について」のグラフを提示する。** **○「これからどんな目標をもって生きたいか」の質問に対してどの国も「お金持ちになる」や，「高い社会的地位につく」ことが低いのはなぜだろう。** ・幸せはお金や地位ではない。 ・どんなに地位やお金があっても幸せになるとは限らない。 ・地位があってもやりたいことができるわけではない。	◆幅広い視点からの生徒の意見を聞き，受け取り方は人それぞれであることを押さえる。
展開	**2 p.18「理想通りにいかない現実もある」「内なる敵」を音読する。** **○理想通りにいかない現実が起きたとき，吹き出しにはどんな言葉が入るのだろう。**（ペアトーク） ・だいたい俺です　・自分の甘え ・時間　・兄弟　・友人　・自分自身	◇「内なる敵」の最後の２行「自分の夢を……」は読まない。 ◇数名の生徒を指名し，吹き出しに言葉を入れて，その意図をそれぞれ聞く。
	◎自ら決めた目標を達成させたいときに大切にしなければならないことはどんなことだろう（グループトーク） ・誘惑に負けない自分。 ・達成できたときの自分を思い描く。	◇グループトークは４人１組で話し合いを行い，発表させて全体で共有していく。 ◇目標を達成するためには強い意志が大切であることに気がついたか。
	3 p.16 を読んで考える。 **○「壁の向こうに向かって帽子を投げる」とはどのようなことなのだろう。**（グループトーク） ・目標に向かって進むしかない。 ・意欲をもって進もう。 ・希望をもとうとする意志のあらわれ。 ・既成事実を作って迷いを断ち切る行為。	◆壁の向こうに帽子を投げる行為は，強い意志をもつことにつながることを押さえる。
	○帽子を投げる行為にはどのような意味があるだろう。その先で見たいものは何だろう。（補助発問） ・壁の向こうには生まれ変わった自分がいるから，その自分に会うためにあえて投げる。 ・帽子は自分の気持ちではないだろうか。	
終末	**4 本時の感想をワークシートへ記入し，気づいたことや学んだことについて，挙手または指名で発表する。**	◆互いの発表に共感し考える。

こんなとき，どうする？



今回のテーマ

「道徳で学んだことはどんなときに役に立つの？」

子どもたちと接する中で出てくる，「こんなとき，どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを，先生方に教えていただきました。

自分をもっと好きになり，人の役に立ちます

佐用町立利神小学校
校長　桑田隆男

道徳の時間は「心の貯金」をする時間です。1 時間の道徳の時間の中で，ねらいを手がかりに自分が登場人物の立場ならどう考えるのか，その思いをクラスのみんなと話し合うことで，自分自身の弱さやもろさに向き合い，それら心の壁を乗り越えるために何が大切かを探り出していきます。それを心の引き出しの中にきちんと整理して貯めておき，必要な時にいつでも取り出せるようにしておきます。そして，学校行事等のさまざまな場面で，道徳の時間に貯めた「心の貯金」を使い，人に役立つ体験や人に喜ばれる体験をすることで，自分をもっと好きになったり，自分が人の役に立つことを実感したりします。また，本当につらい時や困った時にも「心の貯金」を使うことで我慢することができるし，早く立ち直ることもできるのです。

大人になったときにきっと役に立つよ

渋谷区立松濤中学校
主幹教諭　大内弘全

「道徳で学んだことはどんなときに役に立つの？」と聞かれたら「大人になったときにきっと役に立つよ。」と答えます。未来は，習慣や文化が異なる外国の人々と関わりをもつことが普通になり，ＡＩなどの先端技術も発達します。決まった答えはなく，様々な答えのある予測困難な時代になるそうです。しかし，大きく世の中が変化し，予測困難な時代であっても，生命を大切にする心や他人を思いやる心，善悪の判断などの道徳性は必要です。よりよく生きるには，自分の生き方を深く考え，自分と違った生き方があることに気付き，考えを広げたり深めたりすることが大切になります。道徳を学ぶことは，自分と向き合い，自分自身についてより深く考えることです。道徳で学ぶことは，どんな時代でも大切なこと。大人になったときにきっと役に立ちます。

自分の行動原理になり，毎日の生活に役立ちます

西九州大学
非常勤講師　川野　司

道徳で学んだことは，皆さんの資質や能力を高め，他人と協力してよりよい社会を創り，幸せな人生を送る生きた力になります。学校生活で周りの人たちと良好な関係を構築していくためには，相手の立場になって物事を判断する力が必要です。道徳では，学校・家庭・社会で生活するうえで役立つことを学びますが，その根本原理は人間尊重の精神です。それは，かけがえのない自分とかけがえのない他人を大切にすることです。例えば，人が困ったり悲しんでいたりする際には，かつて自分がそうであった時を想起すれば，その人に優しい言葉をかけたり，親切な行動をとったりすることができます。道徳では自分と他人や社会などとの関係について学びを深めますので，身近で実践的な問題解決に役立つ，万人に有効な行動原理が身に付きます。

地球の仲間からのメッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長　長瀬 健二郎

氷山とペンギン

▲フンボルトペンギン

氷山というとペンギンを思い浮かべる方が多いようです。これは世代による差があるかもしれませんが，読者の皆さんはいかがですか。少なくとも筆者の世代の方々の間ではそのようです。昔流れていたハミガキのコマーシャルソングの影響か，と思うのですが……。

ただ16種あるペンギンの中でも，南極大陸で繁殖するペンギンはコウテイペンギンとアデリーペンギンの２種だけで，日本の動物園や水族館でもっとも普通に見られるフンボルトペンギンなどは，南米の太平洋岸の温帯地方に住んでいます。地域によっては夏になると，日本の夏よりもさらに暑くなることもあるようなところです。そのようなところで，地面にトンネルを掘って巣穴を作り，産卵しヒナを育てるのがフンボルトペンギンで，氷山とは全く無縁な暮らしをしています。それどころか，世界の動物園を見渡すと，冬になると暖房が欠かせない動物園もあるほどです。

しかし，日本の昔の動物園や水族館では，ペンギンは氷山と切り離せないと考えていた様子で，展示場を地面にせず，コンクリートを打って白く塗装し，氷山を再現した場所で展示していました。そんな展示が一般の方々の誤解を助長しているのでしょう。

フンボルトペンギンが暮らしている海岸は，南極からの栄養豊かな寒流が流れてくる場所で，良好な漁場として世界的に有名です。魚を主食とするフンボルトペンギンにとってとても住みやすい場所だったのですが，このところ状況が変わってきました。そのような場所は漁師の人々にとっても格好の漁場であることはいうまでもありません。そこで魚を獲るための漁網がたくさん仕掛けられ，たくさんのフンボルトペンギンがそれに掛かって命を落とすことになってしまったのです。同時に，主食の魚が乱獲されたり，営巣地の環境が破壊されたりして，フンボルトペンギンの将来は決して明るいとは言えません。

日本の動物園や水族館では昔から，このフンボルトペンギンがたくさん飼われています。現在，70弱の動物園と水族館で合計1500羽くらいが飼われています。この数は世界でもトップクラスで，野生のフンボルトペンギンの生息数の10%にもなると考えられます。以前ははるかに多く生息していたフンボルトペンギンですが，ヒトの活動によって生息数を減らし絶滅の心配すら出てくるようになりました。多くのフンボルトペンギンを飼育してきた日本の動物園や水族館がフンボルトペンギンの生息の存続に果たせる役割はとても大きいと思います。

道徳と日文 これまでも、これからも

文部科学省検定済教科書
小学校道徳科用

小学道徳 生きる力
1～6年

- 各学年道徳ノート付き。
- 研究編，朱書・板書編，指導者用デジタル教科書，デジタルデータ集からなる教師用指導書完備！

「昇太師匠と考えよう」

日文 Web サイトにて動画配信中！

「笑点」の司会やドラマなどで活躍中の落語家，春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。
ただ今，日本文教出版Webサイトで「受けついでいくもの編」「落ちこんだとき編」など全５編を公開中。道徳の時間にクラスで視聴するなど，ぜひご活用ください。

中学校道徳 副読本

新 あすを生きる
1～3年

- 「いじめ」「安全教育」「情報モラル」など，「特別の教科 道徳」で重視される題材を豊富に掲載！
- 「多面的・多角的」に考えられるように，文章が平易で，身近な内容の資料を精選！
- 付録「ワークシート集」「教師用 DVD-ROM」で，“あっ”という間に準備ができる！
- 「問題解決的な学習」等をサポートした指導書で，“あっ”と言わせる授業ができる！

どうとくのひろば No.19

日文教育資料［道徳］
平成30年（2018年）1月31日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン：モスリングラフィック
CD33384

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690